

核燃料サイクル(2) 高レベル放射性廃棄物の扱い (SDP22)

加部 隆史 (NPO 安全工学研究所)

1) 高速増殖炉もんじゅをどうするか？

2011年11月26日、高速増殖原型炉もんじゅ（福井県敦賀市）をめぐる、細野豪志原発相は26日、廃炉も含めて検討していく意向を示した。自ら副議長を務め、来年夏までにエネルギー政策を見直す「エネルギー・環境会議」（議長・古川元久国家戦略相）の議論に反映させる考え。もんじゅ視察後、福井県おおい町で記者団に語った。

高速増殖炉の問題点は、SDP5<核燃料サイクルを考える>にて指摘済みである。技術的には、爆発しやすいナトリウムの扱いが困難である事から英米仏独が撤退しているが、日本は推進している。経済的は、もんじゅを動かさずに保守するだけで、1日5千万円の費用がかかる。この費用負担は当然、国民がになうもので、税金の使途として合理的であるか？

2) 放射性廃棄物をめぐるドイツでのデモ

もんじゅの役割は、核燃料サイクルに直結する。もんじゅを止めても、別の問題が残る。

ドイツ：放射性廃棄物輸送めぐりデモ

フランスのラアーグとイギリス セラフィールドに委託していた放射性廃棄物の輸送問題。

ドイツのゴアレーベン中間貯蔵設備への輸送に関し、大規模なデモが繰り返されている。

これらの背景に何があるか、市民としては知る必要がある；

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20111127/t10014227401000.html>

<http://www.youtube.com/watch?v=HaVqpTAmkO0&feature=related>

輸送以外に、核の廃棄の問題が残る — 参考：最終処分施設候補地～岡山県の例

<http://www.youtube.com/watch?v=HT-Q6n8p5Ws&feature=related>

参考*チェルノブイリ原発～隠されていた事実—NHK19970815 放映されたデンマーク放送局映像

<http://www.youtube.com/watch?v=b0-AWtxkrjE&feature=related>

3) デモと暴動～市民の意識の非対称性

福島第一原子力発電所の事故を受け、9月19日、作家の大江健三郎さんらの呼びかけで、脱原発を訴えた「さようなら」原発集会とデモが東京・明治公園で開催され、約6万人-（主催者発表）が参加、脱原発を訴えるアクションでは過去最大規模のものとなった。主催したのは、「さようなら原発」一千万人署名市民の会で、呼びかけ人は、作家の大江健三郎さんや、ルポライターの鎌田慧さん、落合恵子さんら9人。福島県からも、市民が-長距離バスでかけつけ、集会開始の午後1時30分には、会場となった明治公園は人でいっぱいになった。

<http://www.youtube.com/watch?v=TjLRe2-71NA>

しかしながら、日本で大勢の人が集まったが、あくまで平和的・お祭りのなデモと集会であったのに対し、ドイツでのデモは暴徒化し、住民の安全要求への権利と、国との闘争で、1960年代の学生運動を彷彿させる。10月中旬、欧州では Occupy wall street-We are 99%をモットーに貧富の格差に関する大規模デモと暴動が繰り返されたが、日本では殆ど目立たなかった。

(2011.11.28 kabe@safetylabo.com)